

# 令和元年度 第3回 学校運営協議会

令和2年2月14日(水) 15:30～ 会議室

司会 三宅教頭 記録 瀬藤首席

出席者：田岡会長、畠野委員、池田委員、奥野委員、松波委員、本庄委員 校長はじめ企画経営委員

## I. 校長挨拶

- (1) 授業改善の取り組み。特に1年生は、総合的な探求の時間において、外部委託の教材で自己啓発プログラム、年2回生きた英語力を身に付けさせる英語プログラム等を行っている。また来年には、修学旅行でのキャリア学習等で、さらなる学校力の向上を目指す。
- (2) 来年度は、東館のトイレ改修を6月から行う。また外壁工事も行っていく予定である。

(田岡会長に司会交代)

## II. 本校からの報告・協議

### (1) 次年度の学校経営計画について(古元校長より報告)

- ・生徒自らの長所を高める、自己の長所を生かした将来に向けてのキャリア実現能力を高める。
- ・新教育課程を踏まえた個に応じた進路実現の支援。
- ・保護者、地域の皆様にむけて、情報発信を図る。

### (2) 今年度の学校評価について(三宅教頭より報告)

#### ○学校教育自己診断の結果と分析

- ・「学校の楽しさ」の項目の肯定値が生徒、保護者も85%と高い。「入学して(させて)良かった」という項目では、生徒8割強、保護者では9割が肯定している。「生徒の意見を聞いてくれる」という項目の肯定値も高く、この2年間の対話を重視した授業改革の成果を反映したものであると推察される。
- ・学習指導については、生徒の授業評価指数5項目(「意見発表機会」「工夫・わかりやすさ」「質問対応」「補講習充実」「ICT機器等活用」)が全て過去5年間で最高値であり、特に1年生では肯定値がさらに高く、総じてこの2年間の授業改革の方向性が定着しつつあり、生徒の高評価につながったものといえよう。また、「朝学習に意欲」を示す生徒は3学年全体で9割近くに達し、過去最高値であった。学習意欲の向上に向けて、全学年において組織的に粘り強く指導している成果であろう。
- ・生徒指導においては、「生徒指導方針の理解」について保護者の肯定値は高く、保護者との連携は取れており、丁寧な指導は保護者にも理解されていると感じている。
- ・教育相談体制については、整備されてきたと捉える教員は8割となり、生徒の「担任以外にも気軽に相談できる」、「悩み等相談できる」肯定値も上昇し、顕著に改善している。
- ・進路指導については、「進路実現に向けて適切な情報提供がある」の肯定値は8割を越え、生徒・保護者とも高く、一定の評価を維持している。
- ・メールマガジンについては、保護者の閲覧は6割弱であり、配信システムは改善されたが、保護者で未登録の方も多く、全員登録していただき、利用していただくことが緊急の課題である。

### (3) 各分掌・学年より重点目標について

- ・それぞれの分掌、学年より報告(別紙参照)

(4) 授業力向上に向けて－カリキュラムマネジメントリーダーからの取組み報告－

○実践経過報告 (片田先生より報告) (別紙参照)

(5) 進路指導における成果と課題

○進路指導部より 72 期生の進路状況報告 (池島先生より報告) (別紙参照)

Ⅲ. 協議・ご意見－学校のさらなる向上に向けて－

(島野委員)

- ・教員アンケートの「校内人事、校内連携、教職員間の意思疎通」の肯定値が5割～6割ということで気にされているが、そんなに低い数字ではないのではないかと。努力は必要だが、ポジティブにとらえたい。

(池田委員)

- ・目標をもって色々な事に取り組んでいることは素晴らしい。生徒指導の話を知っていると、家庭との連携を大切にすることなど、小学校と同じようだと感じた。

(奥野委員)

- ・人を作るには、思いやりの心を育てることが必要。
- ・令和2年度の中期目標の、「開かれた学校づくり」の文を、生徒、保護者、教職員、記念事業委員会、阿倍高を美しくする会を付け足してもらいたい。

(松波委員)

- ・先生方も評価される時代になり、評価するほうもされるほうも、非常に難しくなったと感じる。

(本庄委員)

- ・学校は大学への進学実績だけでなく、子供たちの社会性や、精神的な面、思いやり等の心の教育などを総合的に育む場所であってほしい。

Ⅳ. 諸連絡

次回 第1回会議は 2020年7月上旬～中旬を予定